

みなさんとともに、政治を変えます



日本共産党 豊島区議団ニュース

第四号 二〇〇八年一月一日発行

発行所
日本共産党豊島区議団
東京都豊島区東池袋1-18-1
豊島区役所内
TEL (3981) 1429 FAX (3590) 4650

今年もがんばります

躍進の年に



区民の皆様、新年おめでとうございます。

昨年四月の区議選では、6名全員当選を果たさせていただきました。その後の参院選の結果は、国会を大きく変えています。

テロ特措法の期限切れでついに自衛隊はインド洋から撤退しましたが、軍需商社と政治家の癒着が明らかになり、徹底的な解明が求められます。

国民には負担を増やし、社会保障の削減、特に障害者自立支援法につづいて、世界にも類を見ない後期高齢者医療制度をつくり弱い者をねらいうちにすることは許せません。

国の弱者切り捨ての政治のもとでも、区政は本来の使命である区民のくらし、福祉を第一に進めなければなりません。

豊島区は、これまで

財政難を前面にありとあらゆる切実な区民サービス

を削減し、区民に我慢を強いてきました。区は、増税による増収によって三年連続黒字になりました。いまこそ区民のくらし、福祉などを真っ先に回復することが求められています。

しかし、区は、黒字分を借金返済と目的の

大塚病院は都「直営」のまま存続を

東京都は、「行革プログラム」によって、都立大塚病院を直営でなく、独立行政法人化しようとしています。

独立行政法人とは、民間企業の参入が期待できない事業を自治体から切り離し、別組織にすることによってコスト削減を図るものです。国が、医療改悪を連続して行い、国民から

ない基金などにあてるとともに新庁舎建設を起爆剤とする再開発計画やLRT、東西デツキなど将来巨額な区財政投入が見込まれる大型開発を優先しようとして

しています。日本共産党区議団は、区民の要望にこたえ、国政を変え、住みよい豊島区をつくるために、今年も全力を挙げて頑張ります。



07年12月5日、来年度予算要望(566項目)をおこなう区議団と地区委員会

医療を奪い、地域医療を急速に荒廃させているもと、都立病院の重要性はますます高まっています。

都立大塚病院は、長い間、区民に信頼されてきた区内唯一の公立病院です。また、母子、障害者医療、膠原病などの難病、リハビリなど採算重視ではできない医療に取り組んで

ました。

先行して行われた国立病院を見るまでもなく、独立行政法人化は、「公的責任」がなく、採算が取れない医療はきりすてられていきます。

豊島区民の「安心して医療を受けたいという願い」を守るために都「直営」で大塚病院を存続させましょう。

07年第4回定例区議会

第4回定例区議会が11月22日から16日間の日程で開催されました。日本共産党区議団を代表し、小林、渡辺の両議員が一般質問にたち、自民・公明政権の規制緩和や社会保障改悪、負担増で、ますます広がる格差と貧困で苦しんでいる区民生活の実態にあわせた施策拡充を求めました。

区側から提案された条例改正など議案9件、区民から出された請願・陳情についても、くらし・福祉を守る立場で審議にのぞみました。

また、都バスの削減計画撤回や都営住宅増設を求める意見書を提案するなど、奮闘しました。

小林ひろみ議員が一般質問

小林ひろみ議員は、

「区民のくらし福祉第一の区政に転換せよ」と題し質問。

最初に、「来年度予算編成は区民にとって

最初に、「来年度予算編成は区民にとって

切実な介護や住宅、障害者、教育などの施策の整備・拡充、低所得者への施策充実を最優先すべき」と求めました。

切実な介護や住宅、障害者、教育などの施策の整備・拡充、低所得者への施策充実を最優先すべき」と求めました。



区長は、「区民ニーズに応える」とい

つ、困っている区民の実情に応えようという態度でした。

子育て支援拡充を

次に小林議員が子育て支援策の抜本的拡充を求めたところ、区は

① 妊婦検診の無料化について「08年4月から妊婦健診を5回公費負担(無料)とする」、

② 現在休止中の「ひとり親家庭のしおり」の発行を都に求め、08

年4月までに区独自の「しおり」を発行する、③ 障害児の放課後対策充実について、中高生について具体化を検討中、また、子どもスキップの利用について

も担当部局と相談するなどと答弁しました。

しかし、児童扶養手当削減や生活保護の母子加算削減を撤回、生活保護基準の引き下げ中止などを国に求めよとの質問には、「国の動向を注視する」「要望は考えていない」などと冷たく拒否しました。

住宅施策拡充せよ

小林議員は、「都営住宅の大幅増設を都に要望せよ」「高松三丁目の都営住宅は地元割当を申し入れよ」と求めました。

また、区は独自の公営住宅増設の要求には消極的でしたが、ファミリー世帯への家賃補助は検討すると答弁しました。

最後に小林議員は、高速道路中央環状新宿線開業に伴う山手通り整備について、12月22日開通後の周辺環境の調査や千川中学校付近の対策、要町交差点付近の放置自転車対策、要町交差点以北の歩道拡幅などを求めました。

渡辺くみ子議員が一般質問



渡辺議員は、後期高齢者医療制度について、区独自の対応を求め、一般質問しました。

平均保険料10万超

11月20日、都広域連合議会は、後期高齢者医療制度の条例を日本共産党委員のみ反対で可決。保険料等が決定しました。

これによると保険料は全国で最高額。年金収入388万円以下の高齢者は、現在の国保

料より増額になります。

区独自の減免制度を

渡辺議員は「75歳以上の高齢者の75%の人が年収200万円未満。保険料の減免は絶対に必要」と区長に強く要求。区長は「減免はしない。今後とも」と冷たく答弁しました。

資格証発行はやめよ

次に「老人保健法は、高齢者からの保険証取

り上げを『直ちに命に関わる』と禁止してきた。資格証は絶対に発行すべきでない」と追及。区は「慎重な取り扱いを図る」と答弁。

高齢者健診は無料で

広域連合は75歳以上の健診の、500円の自己負担導入と健診内容を悪くすることを決定。その上、区は「申し込み制」導入を検討。

渡辺議員は「高齢者の健診は重要で、従来の健診を実施すべき」と要求。区は「無料化、健診内容、方法を検討する」と答弁しました。

葬祭事業の実施を

さらに広域連合が事業からはずした葬祭事業について、区の実施を求めると、区は「来年度予算で検討する」と答えました。



主な条例・請願・陳情の審査について

地域区民ひろば条例の改正案が区民厚生委員会(河野たえ子委員長)で審査されました。この条例案は、来年度から区民ひろば上池袋、長崎、椎名町を設置し、児童館とことぶきの家を廃止するものです。これで「ことぶきの家」は全て無くなります。渡辺くみ子議員は、

◎地域区民ひろば条例

第一に地域住民への説明が事前になされていない。第二に利用しにくい施設の改修もせず、特に南長崎第一児童館を区民ひろばとして高齢者が利用するには、エレベーター設置や階段両側の手すり等の改修が必要なのに、区は「金がかかる」と拒否、改修計画もたてていない。第三に職員の削減や、年間事業費はわずか50万円しかないこと等を指摘し、条例案に反対しました。

◎千早けやき公園廃止条例

「千早けやき公園」廃止条例が、都市整備委員会で審査されました。10月に公園の土地所有者から返還申出があり、提出されたもの。「長崎三丁目児童遊園」も面積の半分以上が廃止となります。あまりにも唐突で、地域住民からは、存続を願う声が寄せられています。豊島区では1人あたりの公園面積は



した経緯に問題の本質があり、区の責任も重大」と指摘。さらに「土地所有者との交渉は、ようやくはじまったばかり。存続にむけて全力を」と条例に反対しました。ところが自民、民主区民、公明など、廃止条例に賛成しました。

「介護サービスの充実を求める陳情」が区民厚生委員会(河野たえ子委員長)で審査。この陳情は「05年度の介護保険の見直しで、『ベッドやヘルパーの取り上げ』が行われ困っている。渋谷区のように区独自のヘルパー派遣をしてほしい」として提出されたもの。

渡辺議員は「豊島区で実施した場合、対象者は約400人、経費は1億3千万円。貯めこんだ基金の一部を使えば実施可能。是非実現すべき」と採択を主張。自民、公明、民主・区民は「区民は大変」と発言しながら陳情を継続しました。



◎介護サービス拡充の陳情

◎「四季の里」無償貸付け延長

「猪苗代四季の里」を引き続き2年間(更新)株式会社フォレストに無料で貸付ける議案が提案され、総務委員会でも審査されました。「猪苗代四季の里」は青少年の健全育成のために設置された施設でしたが無償で貸付け、05年4月から民営化されたのです。議武議員は「民営化で中学生のスキー教室

の私費負担が750円増えていること、区民の宿泊料が2100円も値上げされて、区民の利用者が、04年の1万1552人から06年の5千848人と激減した」ことを指摘。区民に負担を押し付け、施設管理も無責任な区のやり方を批判。無償で貸付ける議案に反対しました。

◎子どもスキップ条例

南長崎第一と上池袋第二の2児童館を廃止して、椎名町小学校と池袋第一小学校に子どもスキップを新設する条例改正が提出されました。廃止した児童館は地域区民ひろばとなります。

審査された子ども文教委員会、かきうち信行議員は、長い間、子育て支援の核となってきた児童館の役割に触れ、これを廃止し、子どもスキップに移行すると、①専門の職員が配置されない②異年齢交流が断ち切られる③遊びや保育時間が減らされる④施設が狭くなることなどを指摘。子どもスキップ条例の改正に反対しました。



学童保育の障害児「2名枠」撤廃!

現在、学童クラブの障害児の受け入れ枠は2名となっています。「この枠を撤廃し、希望があれば受け入れる体制をとってほしい」と切実な願いが障害児をもつ父母や関係者から寄せられています。区は今回、粘り強い関係者の交渉もあり、要綱の該当条文を削除し、2名枠の撤廃をする内容を明らかにした中間回答を関係者に通知しました。



日本共産党区議団は、今議会に2つの意見書を提出しました。

1つ目は、東京都が、地下鉄副都心線開業に伴い、池袋・渋谷間の都バス（池86系統）を、4割以上も減便する計画を発表したことに對し、区民の日常生活に

重大な影響を及ぼす問題として、減便撤回を求める意見書です。

2つ目は、要望の高い、都営住宅の増設を求める意見書です。

この2件については、自民、民主・区民、公明は区民の願いに背をむけ否決しました。

なお、全会一致で可決された意見書は次のとおりです。

●固定資産税・都市計画税の軽減措置及び減免措置の継続を求める意見書

●固定資産税における償却資産に関する意見書

「バス路線守れ」「都営住宅増やせ」の意見書通らず

○は可決に賛成 ×は可決に反対

主な会派	日本共産党	自民党	民主・区民	公明党	結果
意見が分かれた主な議案等					
豊島区地域区民ひろば条例（一部改正）	×	○	○	○	可決
豊島区立公園条例（一部改正）	×	○	○	○	可決
豊島区立子どもスキップ条例（一部改正）	×	○	○	○	可決
財産の無償貸付について	×	○	○	○	可決
池袋・渋谷間の都バス（池86系統）の減便計画撤回を求める意見書	○	×	×	×	否決
都営住宅の大幅増設を求める意見書	○	×	×	×	否決

請願・陳情への態度 ○は採択、△は継続審査、×は不採択を主張

大塚病院の都直営での存続を求める請願	○	△	△	△	継続審査
保険でよりよい歯科医療の実現を求める意見書採択に関する陳情	○	△	△	△	継続審査
介護サービスの充実を求める陳情	○	△	△	△	継続審査
都営住宅の増設を求める陳情	○	△	△	△	継続審査



渡辺 くみ子

住所 高田二一八—九—三〇八
(三九七二)一九五〇区民厚生委員会委員、
清掃・環境対策調査特別委員会委員長

かきうち 信行

住所 南長崎三—八—一九
(三九五〇)三六七五党区議団幹事長
子ども文教委員会委員、議会運営委員会副委員長 行財政改革調査特別委員会委員

河野 たえ子

住所 西池袋五—二六—二八
(三九五七)二六〇〇党区議団長
区民厚生委員会委員
長、公共施設・公共用地有効活用対策調査特別委員会委員

さび さとる

住所 巣鴨五—三—八
(三九一八)九四五八

総務委員会委員、防災対策調査特別委員会委員



小林 ひろみ

住所 高松二—五—一〇
(三九五五)八二四四党区議団副幹事長
総務委員会委員、副都心開発調査特別委員会副委員長、清掃・環境対策調査特別委員会委員

森 とおる

住所 西巣鴨一—三—二〇—二
(三九四〇)六九六〇党区議団副団長
都市整備委員会委員、公共施設・公共用地有効活用対策調査特別委員会副委員長

ご意見、ご要望をお寄せください

日本共産党豊島区議団

TEL (三九八二)一四二九